



牧羊犬の「グレン」です。羊を追いかけます。ヨロシク

私は「ケイト」。引退しましたの。

六甲山牧場では、春は羊の赤ちゃんのベビーラッシュです！！

～環境局に質問しました～

国のプロジェクト「環境未来都市構想」のコンペに、神戸市も力を入れて取り組み、応募しましたが、残念ながら、次点となりました。神戸市は、引き続き、今年度、再挑戦する意向です。また、今年、建設局が六甲山整備に取り掛かります。環境局、建設局に質問しました。

神戸港から始めよう～環境未来都市～

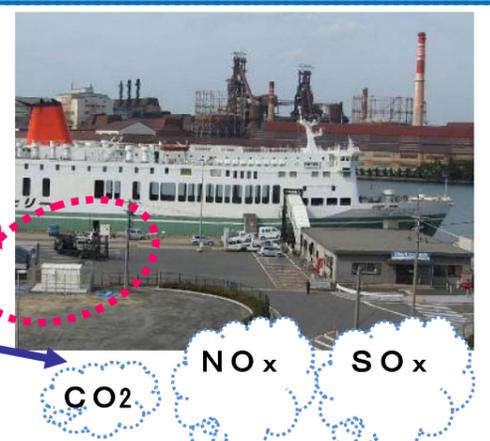
環境未来都市に再挑戦の際、もう少し神戸らしさを活かした提案を盛り込んでいくべきでは？船舶は停泊中も電気を使用するために重油を炊きます。陸上電源を港に整備することで、陸上から電気を供給し、「海洋エコシティ」を目指してはどうかと、以前、質問しましたが、標準化が進んでいないので検討中とのことでした。
 未来都市構想において、検討の余地があると思います。再度お伺いします。

市当局：陸上電源供給は、港湾物流におけるCO2排出削減や大気汚染防止の方策として大きく期待されている。国は、全国5港湾、函館・釧路・大阪・新居浜・北九州において実証実験を実施するなど、普及に向けた取組みが始まりつつある。神戸港では、民間事業者のごく一部が取り組んでいるにとどまっておらず、安全性やコスト面、標準化などの課題がある。陸電供給に限らず、港湾地域における低炭素化の取組みを進めることは、大変重要。港町として発展してきた神戸にとって、神戸港は大きな財産であり、神戸らしさ、神戸の強み、神戸の特徴の象徴とも言えるので、みなと総局とも連携し、神戸ならではの低炭素型港湾モデルを構築していきたいと思っている。

他都市の例(北九州)を紹介～

- 受変電設備
- 電源接続設備
- ケーブルラック等を整備して、船舶へ陸上電力を供給しています。

実証実験による効果(北九州港側)
 ◎二酸化炭素については約5割強削減
 ◎NOx、SOxについてはほぼ全量の削減が可能

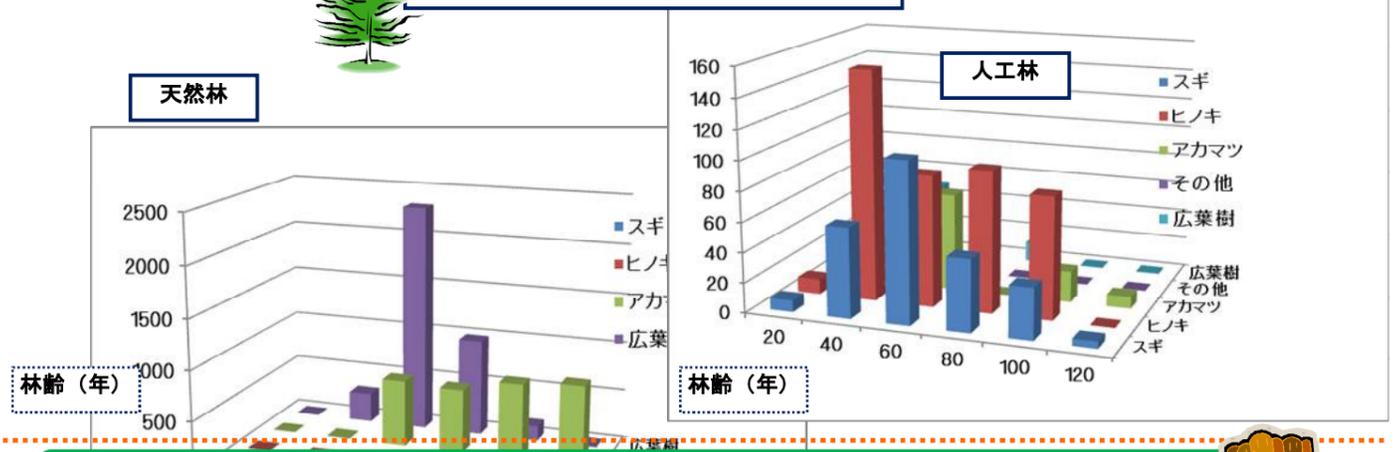


六甲山森林整備戦略について

六甲山は、土砂災害の発生の可能性などを含んでいることから、今年、矢田市長は、六甲山の森林整備事業に取り組みます。植林以外の天然の樹木も多く、国立公園でもあり、林道整備など間伐は課題も多いと推察されます。どういった間伐を行う計画ですか？また、間伐にあたって、どういった種類の木がどのくらい産出されますか？

市当局：六甲山の森林は多様な植生、樹種で構成されており、その森林資源の現存量を推計すると、人工林が約12万m³二次林が、広葉樹が中心だが、約56万m³となっている。それらを、樹種の違いや傾斜などの地形条件も考慮して伐採可能量を試算すると、年間で最大で1,400m³想定している。六甲山の森林のうち約50%は民有林で、所有者が多岐にわたる。六甲山は国立公園のため、伐採した樹木を搬出するための作業道などの整備にあたっては、自然環境への配慮が必要であり、最小限度のものとする必要がある。
 来年度は、まずは市有林を対象に、六甲山の自然地形に即した形での発生材搬出の実証実験を行う予定。

六甲山における林齢別面積(ha)



六甲山ブランドの薪ストーブスローライフを！

建設局によると、間伐材は最大限で年間1,300トン程度発生すると聞いています。未来都市構想のハイテクなバイオマス発電に加えて、ローテクな薪ストーブを中心にした六甲山でのスローライフの取組みを行ってはどうでしょうか？六甲山のブランドを活かして、おしゃれな暖炉や薪ストーブを集めたショップ、布引ハーブ園とも連携してハーブを使用した暮らしのモデルハウスなどを六甲山に誘致したり、遊休保養所を活用して、薪割や、ペーパーログ(薪の代わりに新聞紙を圧縮して作成する燃料)の制作体験などができる環境学習のワケトン森のハウスといったものを作ってはどうでしょうか。

市当局：薪ストーブは、高機能タイプであれば、灯油ストーブに比べて、1台年間約3トンのCO₂削減効果がある。「ワケトン森のエコハウス」といった施設の提案について、私(環境局長)にとっては魅力ある提案であるが、新しい施設は難しい。既存の学習施設を工夫することで、薪ストーブや薪の使い方を学べて、市民に興味を持っていただけるような環境学習ができるのではないと思う。建設局や兵庫県等の関連部局とも打ち合わせをして、検討したいと思う。



古新聞から作る薪「ペーパーログ」と作る道具

(有) 伸和金属さんのホームページより引用